【中学校　詩　優秀賞】

この風に乗って

浦添市立仲西中学校　二年
金城　雄大

青く澄みわたる空
うすく流れる雲
心地よい風
うりずんの季節
毎年この季節に
みられる光景

刻まれた名前を前に
ぽつりとつぶやく老婆
「いもかずらの葉を食べたね」
誰に語っているのだろう
「ほほのそば
鉄砲の玉が
かずめていったさ」
そのうつろなまなざしは
どこを見つめているのだろう
彼女の髪が
無表情のほほで揺れている

「しむさー」
彼女の声が
礎の向こうに響く
誰に語っているのだろう
無表情のほほに
髪がなびく

だまって
礎と向かい合う
彼女を
遠くから見つめている僕

青く澄みわたる空
うすく流れる雲
そして
優しく吹く風
その中にひとりの老婆
まるい背中
にぎりしめたガーゼのハンカチ
やわらかにゆれるスカート
あいかわらず
無表情の横顔

沸き上がる
熱い思い
あの時から
流れる時間は
今も続き流れている
その時の流れに存在する僕の
この熱い「思い」は
生への証
生への鼓動

途絶えることのない
時の流れの中に
存在する僕

無表情の横顔に
「ひとりじゃないよ」
小さな声で
つぶやく僕がいる

あの時から

今なお流れる時間の中に
魂たちの息づかい
生への思い
今なお続く歴史の中に
確かにいる僕の存在
無限に連なる命のリレー

丸い背中のあの人に
再びつぶやく僕
「生きているんだ」

ふと風が吹き
彼女のほほに
髪が揺れる
かすかにほほ笑む彼女の横顔
優しい風が
彼女のほほをなでる
「笑み」をとりもどした彼女
礎の向こうへ歩み出した

もっと生きたい
もっと生きたかった
その声を
しっかり抱き
力強く歩んでいく彼女の後ろ姿
さわやかな風
青く輝く空
ゆっくり流れるうすい雲
これから来る「未来」にむかって
僕は誓う
ー二度とくり返さないー

どうか
まっすぐに
この想いが届きますように
ほほにふれる
この風に乗って